



不屈

(585号付録)  
 京都版 第442号  
 2023年3月15日  
 治安維持法犠牲者  
 国家賠償要求同盟  
 京都府本部  
 〒604-8832京都市中京区  
 壬生下溝町 51-41  
 (電) 075-312-8787  
 fax 075-325-3863  
 info@kokubai-kyoto.com

## 第94回山宣墓前祭 (2023年) が開催されました！

「墓前の誓い」から・・・  
 私たちは岸田政権の大軍拡、大増税と対決して、憲法9条を生かした外交で平和を築く政治、国民のいのちと暮らしを守る政治へ、自民党政治の大転換をめざします。目前の統一地方選挙で、大軍拡と真正面から戦う政党・候補者の勝利、市民と野党の共闘の再構築に力を尽くすことをあなたの墓前に誓います。どうか見守ってください。

墓前祭は、開会あいさつ、黙祷、山宣追悼歌披露、実行委員会献花・挨拶に続き、治安維持法国賠同盟、民主青年同盟、年金者組合、国民救援会、新社会党、日本共産党が追悼のこたばを述べました。  
 墓前の誓い、特別決議を全員で確認、山本宣治の孫で民医連9条診療所長の山本勇治さんの挨拶を受けました。

岸田政権による大軍拡・戦争国家づくりを許さず、平和・いのち・くらしを守る政治に変えよう！  
 山宣の遺志を継ぎ、力を合わせ、くらしと平和、民主主義を守ろう！  
 治安維持法改悪に反対して1929年39歳で右翼に暗殺された労農党代議士、山本宣治の94回目の墓前祭が、命日である3月5日に宇治市の善法墓地で開催されました。

## 追悼の言葉

治安維持法国際同盟  
京都府本部長  
原田 完

## 追悼の言葉

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟京都府本部の原田完です。山本宣治さんが右翼の凶刃に倒れて94年、今また自民党岸田政権と維新をはじめとする補充勢力によって大軍拡・大増税、社会保障の削減、憲法改悪へのめりの姿勢で戦争への道へと突き進んでいます。

山本宣治さんは侵略戦争へと突き進む天皇政府に対して反戦平和をかかげ、国民のあらゆる権利を奪い弾圧を強行する治安維持法に反対し、国会での討論が封殺されたもとで宿舎において凶刃に倒れました。

山本宣治さんと同じ時期に共

産党員でプロレタリア作家小林多喜二さんが獄中の拷問で惨殺されましたが、命をかけて貫いた思想と作品で「戦争の加害や被害の事実だけではなく、あの時代に治安維持法のもと厳しい困難な中で抵抗する生き方」「1928年3月15日」や「蟹工船」「不在地主」で、農民争議やストライキを弾圧する存在としての軍隊と戦争の本質を命がけで作品を発表し「戦争の持つ経済的、生命的悲惨、戦りつ、残虐」を訴え告発してきました。絶対主義的天皇制政府はアジアでの植民地政策を推し進め侵略戦争を突き進み、日本人の310万人、アジアで2000万人の命を奪う戦争を突き進みました。

岸田政権が閣議決定した安倍3文書に明記された敵基地攻撃能力について、射程2000〜3000キロのミサイルを持つ

て相手方を破壊するものであり「専守防衛」との政府の言い訳は通用しません。しかも米国防総省の「統合防空ミサイル防衛」(IAMD)では、「先制攻撃をやると明記され、自衛隊も米軍と一緒に先制攻撃を行うこととなります」。

敵基地攻撃能力の保有に沿った大軍拡・大増税路線は、国を滅ぼすものだとして厳しく批判しなければなりません。

ロシアのウクライナ侵略以降、国際的な緊張は激化しています。台湾有事や北朝鮮の大陸弾道弾ミサイル発射実験などを理由に敵基地攻撃能力の保有や、防衛予算の2倍化などは、「専守防衛」とはかけ離れて戦争への道へ突き進むもととしています。

しかも赤旗日曜版がスクープした自衛隊基地の地下司令部の建設を300か所の建設、京都で言えば、舞鶴の総監部の地下

化や宇治、大久保等の自衛隊を生物・化学・核兵器などの攻撃に耐えうるように整備と、敵基地攻撃能力保有と大軍拡をいつそう推し進めようとしています。

私たちは第2次世界大戦を反省し、日本国憲法という「宝」を得ました。「戦力不保持」

「交戦権の否定」を定めた9条2項です。世界でも平和を希求する素晴らしい国となりました。

今、平和の危機のもと山本宣治さんが貫いてきた、その生き方は私たちが大きく激励し、同時に戦いへの勇気を与えています。山本宣治さんが命を賭して反対した治安維持法がつけられ、あと2年で100年経とうとしています。治安維持法犠牲者への国家による謝罪と賠償の実現目指して、大軍拡反対、大増税反対の闘いを春の統一地方選の勝利目指して奮闘することを誓い追悼の言葉とします。

## 全国女性交流集会

に参加して・・・

昨年末、静岡県熱海市で3年ぶりに全国女性交流集会が開催されました。28都道府県から95

人が参加、活動の成果や悩みを出し合い、女性部活動を前進させていくことを誓い合いました。

京都から、山田美野里さんと栗倉正江さんの2人が出席されました。

3分の1が初参加で、吉田万三中央本部会長は、侵略戦争に反対してたたかった治安維持法犠牲者に謝罪と賠償を求める同盟の役割が重要と強調しました。

田中幹夫事務局長は、同盟の到達点と今後の課題について報告。大石喜美恵女性部長は、全県に女性部をつくり、アイデアを出し合って魅力ある活動をと呼びかけました

田村智子共産党副委員長・参議院議員が「女性の権利・ジェンダー平等、時代を拓く不屈のたたかい」と題して記念講演を行いました。2日目は5つの分科会が開かれました。

山田美野里さん

わが青春つきるとも 伊藤千代子の生涯を読んで 涙が止まりませんでした。自分で言うのも気が引けますが、読書好きでいろいろな本をよく読んでいました。

そんな時に黄色い署名用紙を差し出されて、今年も国会請願をします。毎年書いてもらっていますが、治安維持法同盟は粘り強い活動をしているのですと・・・ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために・・・平和・民主・人権の21世紀を目指します の3項目読み直して伊藤千代子の生涯を読んでいた

ので今回の署名は、少し力を入れて名前を書きました。

機関紙「不屈」の交流会開催案内のページを広げて、この日予定がありますか、特別なことがなければ参加して下さいませんか、と言われました。

京都から二人、もう一人一緒にと栗倉正江さんにお誘いしています。栗倉さんには山田さんにいってもらいますのでお二人一緒によろしく、と言っており、と交流会参加を要請されました。

特に、その二日間、予定も家庭の事情もなかったのも、もう一人の名前を言われた栗倉正江さんと連絡を取り合って参加させていただきました。

交流会は、岸田政権の危険な戦争をする国づくりを許さず治安維持法犠牲者への国家賠償法の制定を求めて、歴史を語り会員の拡大を進めること・女性部の

の創意を生かした活動の強化が確認されました。全国からの参加者の多くが京都の二人と同じ初参加でした。

先駆者・犠牲者の多い京都での女性部の活動強化に、お役に立てること、私に出来ることを考えたいと思います。

栗倉正江さん

全国女性交流会に参加の要請がありました。

この日(2日間)湯河原のホテル)予定ありますかと、女性交流会の案内を見せて聞かれました。治安維持法同盟の活動(謝罪と国家賠償要求)の毎年の国会請願署名もほぼ毎年していました。頼まれて署名用紙を預かったこともありました。

山本宣治・小林多喜一・国領五一郎・谷口善太郎・河田賢治・伊藤千代子などすぐに名前が出てきます。

山田美野里さんにもお願いしています。山田さんもあなたとやら・・・とほぼ決定の感じでしたので参加でき、山田さんに確認の電話をしました。

全国女性交流集会は初参加者が多かったと思いましたが、新しい参加者がそれぞれの県で活動の強化に努力して行くのが多くの民主団体の活動なのでしょう。山宣祭・国領祭の参加もしてきましたし、昨年は蜷川さんの命日墓参りも行きました。今年も1月30日に河上肇さんの命日墓参りもしました。

京都の国賠同盟の活動に少しでも参加できればと思っています。



### 国葬5回体験の小畑哲雄さんの話を聞く

―佐藤和夫―

「京都の民主運動史を語る会の例会に参加して」

「昨年7月の参議院選挙で安倍晋三元首相の銃撃の報道に接して、『あつ、国葬になるのではないか』と嫌な予感がよぎった。当たらないことをねがったが、的中した。」と小畑哲雄さんは語りだした。

1927年生まれの小畑さんは、1934年6月の東郷元帥の国葬、1940年12月の元老・西園寺公望の国葬、1943年6月の山本五十六海軍元帥の国葬、そして戦後の1967年10月の吉田茂の国葬に安倍の国葬と5回目を体験したのだ。

1926年に天皇の勅令で制定された国葬令は、天皇主権の国家に「勲功の有る者」が対象とされ、戦後の国民主権の国家にはそぐわないとして廃止されたものを復活した狙いはなにかと小畑さんは問かけた。

戦前、県立熊本中学の学生だった小畑さんは、山本元帥の国葬にあわせて、「山本元帥に続け、予科練(海軍飛行予科練習生)に志願せよ」と、志願しない生徒たち500人が剣道場にあつめられ、床を踏み鳴らして教師から恫喝された思い出をかたつた。小畑さんも1944年10月に第10期予科生徒として陸軍経理学校に入学したが、同期の親友は行きたくなかったと秘かに語り、異郷の地で戦病死したと言葉をつまらせた。

戦後、教職の道へすすんだが、戦争の前には戦争を拒めなくす

る教育の仕掛けが作られると語る小畑さんはかくしやくとして「平和の語り部」をつづけている。

## 今年の 国会請願日は 5月17日(水) です!

会員の皆さん。今年の国会請願日は、5月17日(水)となりました。私達は治安維持法による犠牲者への謝罪と賠償を求めて、1974年以来、毎年粘り強く署名を集め、国会請願を行っています。京都では、一万筆の目標を掲げて頑張っています。大遅れていますが、ご家族やお知り合いの方々、所属団体の皆さんに署名をお願いしてください。